

第九號



官許  
琵琶湖新聞

定價三錢五厘

明治六年第五月

西垣文庫  
文庫10  
7374  
9



特 文庫10  
7374  
9

緒言

新聞ノ徳タルヤ大ナリ内知見ヲ闡キ外事業ヲ施シ  
不知不識文明ノ域ニ進ミ開化ノ室ニ入り上下言路  
ヲ通ジ勸懲善惡ヲ判ス故ニ  
官許シテ天下ニ公ニスル所以ナリ庶幾ハ四方ノ君  
子上公裁ヨリ下俚言ニ至ルマデ縷々記載シ吾社ニ  
投入シ玉ハンコヲ是今日ノ必務ニシテ開明ノ徳ニ  
報ズル所以ナリト爾云

心通文庫

琵琶湖新聞第九號



○ 毎度以テ私事願上候儀恐縮之至ニ候得共別紙啓蒙社  
之願意其深切ニシテ小生ノ宿志ニモ相酬ヒ候擧ニ  
付枉テ願上候ハ何卒此新聞紙ヲ御管下ノ者へ可成  
丈ケ多ク御頒布被下一者同社ノ業ヲ成サシメ一者  
御管下ノ匹夫匹婦モ克ク文字ニ向ヒ候様御周旋ヲ  
蒙リ度キ事ニ御坐候依テ別紙願書并新聞紙吉號相  
添此段私願仕候也

二月

前島驛遍頭

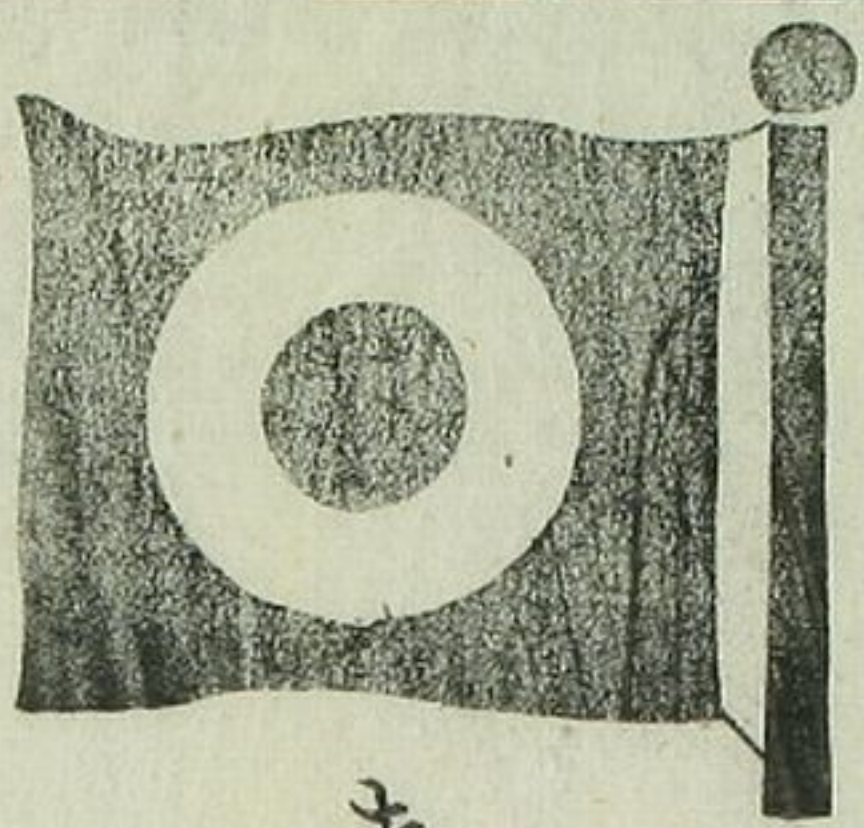
琵琶湖新聞第九號

松田滋賀縣令殿

追テ幸ニ本文ノ儀御許容被下御管下人民ノ取入  
レ数相分候ハ直ニ啓蒙社へ通達候様御教示被  
下度候也

紀元二千五百二十三年第二月

定價百五十文



またち ひらがな さんぶん だいごばん

東京相模橋通神田淡路町三丁目

啓蒙社 發兌

このさんぶんをきりだきにはそももふたつのおもむき  
ありひとつにはまいちのおふれをはじめくにうちはまろ  
までもなくひろくせかいぢうのうつりかあるありさま  
かきつづりあまねくをんかごどもにもみせてくにのひらけ  
をまむをたきくるためふつにはわがくにはことばまは  
のくになればかぎおほく志てまはびがたきからのをどは  
なくともひらかお五十志さへあればよろづのこと  
きこ志もさ志つへあきことをあまねくひびとに志らせ  
こののちおほひにわがくにとばのがもんをおとすため小  
まりいだきさんぶん志あればのらぎひらかおにてかきつづり  
からのも志はひとつもちひぬはづあれともわがくにの

のちやひとのちにいなりてはよみがたきところおひとお  
 おほければもちやかまあやまることもあらんかとおぼゆる  
 より志ていま志はらくからのとどきをのこまおけるなり  
 ただ志ことばのみぎに || この志あるはところのち  
 かりひだりにあるはひとのちなりみぎに | この志ある  
 あるはやくめのちなりまたことばのおほりに | この志ある  
 はくぎりなり | この志あるはくみきりありあこまきに  
 ( ) この志あるはくみあか志の志あるなり

○このころ しぎのまの みぎこ るんより せん まの なより いふ  
あま や まの ま ん か に お い て か あ ら ま さ く ん お ん ん と き も や う  
 あるにより しぎのま るん か の り ま う く は その あ ん だ ん ん

べきはかりごとをまらま あはせたり

○ あ ま ま く る ん ん ん の ま ら せ に い ふ あ ま ま ま う の ま ん か  
 にある ま い ぶ わ と い ふ く に を ら ま や より い ふ ん と き も や う  
 に い ま り ま に て は あ が り ま う ぶ ん の て ん だ く に ち か き を  
 う れ ひ こ れ を と ば み て い ふ と ま ら ま や ま い ぶ わ を せ め と り  
あ ふ が に ま た ん ( ま い ぶ わ の み あ み に あ る く に あ り ) ( せ め い ふ  
 なら ば か あ ら ま ぎ あ れ よ り そ の つ み を と ふ い ふ ん を お こ さ す  
 ぶ ま と あ り

○あるひとのあけぶみにいふこのたびそのおんまやちうにて  
 いらかかのまいにちまふん志をおだまをされいはまことに  
 おくにのためにはよろこばまきことに い ふ ん の む が ま あ が く に い ふ

のからも志をよみそのことがらを志るとのはあづか二三  
 まんにんにきぎぬやうにありゆきその二三まんのひとさ  
 むつかまきも志をまおぶにあたりつきひをおくり志も名  
 はつめいのこともおくひらけぬくたのありまにてもせきに  
 ちかごろよりややくせやくのやうきもわがりておかみに  
 はいろいろおころをくせられひびにひらくるみよとは  
 ありゆくありまあれどもいまにてもおふれをはじめ志ん  
 ぶん志のるまでむつかまきからも志にままたげられひびにお志  
 ぶていむつとかたはぬゆきとあひをわきまへまんのまお  
 びをまおものは二三まんにんもあるまおくおほらわられ  
 ごときものはひびのいとあみこときげくいつかまおびのかた

は志をもわきまへよのま志はりのあるべきかとかげ  
 かまぐぞん志をり志にこの志んぶん志のいで志よりかいくわ  
 のみよのありがたきはまうままでもなくよのなかの  
 うつりかわるありまそのほりかぎかぎのえきをえいは  
 このうへもあきよるびにいまある志んぶん志には  
 からも志のまてがたきことをあげてからころものうを  
 のせられたりしてやわれらもころにおもふままを  
 志る志を志あげいにしきおわらひまてくだなるづくい  
 らまきまばぬぎかへもせよからころもももさで  
 ひことをおほふそでかは  
 まなぶみはいもたらおくにからころもかさぬる

と志を おしまざらめや

右ひらかな新聞抄出

此新聞紙ハ斯ノ如キ平假名ニテ容易ニ讀ミウル様  
認メアレバイロハ四十七文字サヘ識タレバ幼童婦  
女マデモ知り得ルナリ有志ノ人々ハ直ニ啓蒙社へ  
示談アツテ入社ナス所又毎号取寄スル所隨意ナレ  
バ購求シテ熟讀ナシ日新開化ノ景情ヲ識得スベシ  
カヒモキ シトヨミ クモキ シリキマフ

○東京新聞抄出

皇城炎上翌日東京府貫属華族徳川兼茂和歌山縣  
旧知事ヨリ左ノ通り合金三万五千圓献上願出

ル趣右願書ノ寫

今般 皇城御炎上誠以奉恐入候併百度御維新之際  
自然 皇居モ御新營之御時會速ニ不日成之ノ御盛  
營可被為在奉存候就テハ聊金二万圓献上仕度何  
卒子来ノ微衷御憐察被成下右御用途ノ一端ニモ御  
加可被下候ハ如何計難有仕合奉存候此段奉願上  
候以上

五月六日

正三位徳川兼茂

大久保一翁殿

追而昨壬申三月邸宅今割献上仕候ニ付追テ御下

賜可有之旨被仰下候一万五千圓ノ御書付ヲモ本  
文ノ庶ニテ還献仕度此段并テ奉願上候

前同事ニ付華族山内豊範高知縣旧知事ヨリ  
献金如左

今般 皇居炎上實ニ以テ恐懼ノ至奉存候依テハ微  
志ノ万分トシテ些少ナガラ金一万圓献上仕度奉願  
候以上

五月七日

從四位山内豊範

宮内省御中

○官令

參議西郷隆盛被任陸軍大將兼參議候條為心得此段  
相達候事

明治六年五月十日

正院

○滋賀郡園城寺元境内ニ於テ歩兵營築造之儀陸軍  
省第四局假出張所ヨリ當縣へ沙汰アリシ由

○各郡正副區長及ビ村々正副戸長ハ村高或ハ戸數  
ニ應ジ一躰ノ月給ヲ相當ニ定メタキコナリ且村方

費用旅費等モ豫メ計筈シ一ヶ年ノ費用ノ概略ヲ取  
極メ先ヅ一ヶ年定額ノ費用ハ凡ソ惣計何程ト戸數

ニ應ジ惣計ヲ増減シ一戸ニ付一ヶ年何程ヅ、出錢

明治六年五月十日

ト戸ノ上中下ヲ公平ニ區分シテ各自ノ定額出錢ヲ  
一日瞭然ト認メ一區ノ費用ハ區長門前一村ノ費用  
ハ戸長門前へ揭示アリタシ假使正副區戸長公役ニ  
費ス所ナリ凡其出ル処一厘トテモ諸人ノ力ヨリ出  
ザルハナシ尤臨時ノ費用ハ一同ノ衆議ノ上ニテ決  
定ナサバ自ラ彼我ノ嫌疑モナク公然一和ノ基ヒナ  
ルベシ 右投書

記者曰費用揭示云々ハ既ニ泉州岸和田邊ニテ戸  
長役所トモ思フ所ニ費用ノ个條ヲ委曲ニ認メ公  
然揭示アリシヲ見タリ誠ニ開明ノ時勢ニ適當セ

ル措置ト云ツベシ此一事ヲ見テ其土人ノ開化セ  
ルヲ知ルニ足レリ

○論說

夫レ金貨ハ國家ヲ保ツ要物ニシテ一朝之ヲ缺ケバ  
威力頓ニ廢ス故ニ國內ノ人民金貨ヲ以テ其帝王ニ  
給セザル者ハ人間第二等ノ下位ニアリテ自主自由  
ヲ得タル者ニアラズ抑政府ノ費用ニ供スル金額ハ  
各國其收納法則ヲ異ニス縱令如何ナル法則ヲ以テ  
其貢稅ヲ取ルトモ皆是レ人民ノ懐ニ出デザル者ナ  
シ故ニ 皇上ノ恩賜シ玉フモ大藏省於テ賞與スル



モ其外海陸軍ニ給シ諸官負ニ與フルモ亦人民ニ非  
ザルナシ即チ一言ニシテ之ヲ言ハシ官庫ヨリ出ル  
者ハ則チ人民ヨリ出ルモノナリ人々皆能ク此理ヲ  
解セバ遂ニ民力ヲ生ズル基礎トナリ且ツ大ニ政府  
ニ益セン元來政府ノ費用ハ人民ノ出金スル所ナル  
ヲ以テ人民自カラ其費ヲ論ズルノ理アリ故ニ歐米  
ノ自由國ニテハ人民皆此大權ヲ有ス茲ニ國ノ會計  
ヲ行フ適宜ノ方法アリ即チ次ノ如シ一年中入費ノ  
方アリ一年中入費ノ目筭ヲ立ツベキナリ譬バ其要  
用ナル金額二億兩ナラバ各貢稅ヲ筭計シテ之レニ

適セシムベキナリ然レドモ彼要用ナル金額ヲ越テ  
多分ノ稅ヲ取ルベカラズ而シテ人民ヨリ集收スル  
時ハ必ズ其所以ヲ知ラシムベシ諸外國人民ノ名代  
人アリテ各事ヲ議スル者ハ其會計事務職毎歲年始  
ニ其目筭ヲ出シ之ヲ商議セシムルナリ茲ニ於テ議  
官各其見ヲ述ベ其衆議ヲ取り之ヲ決定スルナリ又  
其金額集收ノ仕方ヲ議スルコトニテ會計事務職先ツ  
其說ヲ述ベ議院ニ下シ議院或ハ此集收行フ可ラズ  
ト為サバ必其方法ヲ改ムルナリ人民ノ名代人ハ斯  
ク注意シテ其人民ヲ擁護スル故ニ曾テ法外ノ貢稅

琵琶湖新聞第九號終

等ヲ置テ蒼生ヲ困ルナシ今日日本ニ於テ實ニ要用ナル者ハ人民ノ撰舉スル議員ヲ以テ議院ヲ設ザル可ラズ斯ノ如クシテ物々其議ヲ取ラバ一層進步ヲ増ベシ去リテ正院左院ニ於テ方今此企ヲ為スモ亦然ルベキナリ然ルレハ大藏卿毎歲其積高ノ書面ヲ以左院ニ送り左院綿密ニ之ヲ議事シ且入札ニナスベシ議終レバ之ヲ出版シテ遍ク諸人ニ知ラシムベキナリ外國ノ人民ハ皆能ク其邦國會計ノ模様及其費用ノ有様ヲ知り得ルナリ余等近日ニハ英國會計ノ模様等ヲ舉テ猶明細ニ記載スベシ

右日新真事誌抄出

伏テ四方ノ君子ニ敬白不既ニ官許ヲ蒙リ局ヲ開キ新聞ヲ刊行シ選邑僻隈マテモ擲メ遠近日新ノ景況ヲ告ゲ俱ニ開化文明ノ域ニ進マンヲヲ希望ス雖然耳目ノ届ガザル多シ願クハ小大トナク事實書綴リ本局又ハ所々出局取次所等へ出シ玉へ次第ニ出版致スベシ但遠路ハ殊ニ報知ヲ希フ其書付ニハ何レモ其住所姓名ヲ載セ玉へ無名ノ書ハ敢テ採入セズ無根ノ浮言造説アルヲ恐ル

總テ望ニヨツテ出版スル事件大略

- 諸會社ニテ取扱ノ品々出入數量○物價ノ高低○新規發明ノ器械
- 諸開店ノ披露○田園山林家邸舟車等ノ賣買貸借○失物尋物
- 觀セ物集會等ノ披露○諸藝私塾開業ノ披露○諸產物家具食品藥劑等一切ノ賣買○金銀貸借
- 右ノ外總テ世間ニ弘メ人ニ知ラシメントノ事情ハ何レモ一行廿二字價三錢ニテ引受出版致スベシ

本局

琵琶湖新聞會社

近江國大津松頭町

大津濱通 原田 五郎助 古川 伊助

彦根橋屋町

高田 平三

長濱

田邊 耕平

鳥井本

平十郎

八幡町

木村 源造 取

八日市

福原四郎左衛門

愛知川

清次郎

日登町

上林嘉右衛門次

守山

草津

田中平右衛門

水口驛

伏木八郎兵衛所

本堅田

清十郎

大溝

三矢 治兵衛

石部驛

小嶋金左衛門

海津

北村

金谷 平三郎

賣込所

